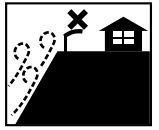


■施工される方へのお願い

- この説明書は施工完了後、施主様へお渡しください。
- 本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。

▲注意・・・取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負う危険および物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

- 製品破損による人への被害、物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください
- 設置条件
 - 母屋の屋根からの雪が直接当たらない場所に設置してください。落雪により製品が破損するおそれがあります。
 - 本製品は一般地域用です。積雪の多い地域には取り付けしないでください。一般地域用600タイプ…積雪20cm以下の地域
 - 本製品は地上階に取付ける設計となっております。2階以上の高所に取付けると強風により製品が破損するおそれがあります。
 - 柱の移動は、当社指定範囲内にてください。
 - 崖などの高低差のある場所には設置しないでください。
 - 風当りの強い場所及びサイドスクリーンを付ける場合は補助柱で製品の補強をするとともに、風にあおられない向きに取り付けてください。（前枠を建物側に向けて設置してください。）
（例1）：丘陵地
（例2）：田畑・野原・風を妨げる物のない平地に隣接した場所や海岸沿い等
- 部材の固定
 - タッピンねじの下穴は、指定された下穴より太いドリルを使用しないでください。
 - 組立てねじ・ボルトは必ず指定のものを使用してください。又、使用中緩まぬように締め付けてください。
- 施工時の足場について
 - 施工時はしっかりと足場を設け、転落などの危険がないよう注意してください。
- 基礎について
 - 基礎は当社指定寸法以上にしてください。
 - 地下埋設物（給排水管など）に影響を及ぼさないようご注意ください。
 - 寒冷地で凍上のおそれのある地域に取付ける場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。
 - 基礎には海砂及び急結剤・凍結防止剤を使用しないでください。柱が腐食するおそれがあります。
 - 養生期間は十分（4日～1週間）にとり、養生期間中は重いものをのせたり、振動させたりしないようご注意ください。
 - 柱には水抜き穴をあけてください。柱内の水が凍結膨張し、柱が破損するおそれがあります。
- 絶縁処理について
 - アルミ材が亜鉛・ステンレス以外の金属と接触する時は、絶縁処理をしてください。
- 屋根パネルについて
 - 屋根パネルは当社指定の製品をご使用ください。
- 施工について
 - みだりに改造・変更（階段屋根・母屋への取付け・四周の囲い等）をしないでください。
 - 取付けは専門業者の方が行ってください。専門知識がない方が施工されますと不具合発生の原因となることがあります。
 - シーリング指定箇所には必ずシーリング材を充て込んでください。
 - 水平・垂直は正確に測ってください。直角が出ていないと施工に支障がでるおそれがあります。
 - 当社指定の付属品以外は取り付けしないでください。



■お施主様へのお願い

▲注意

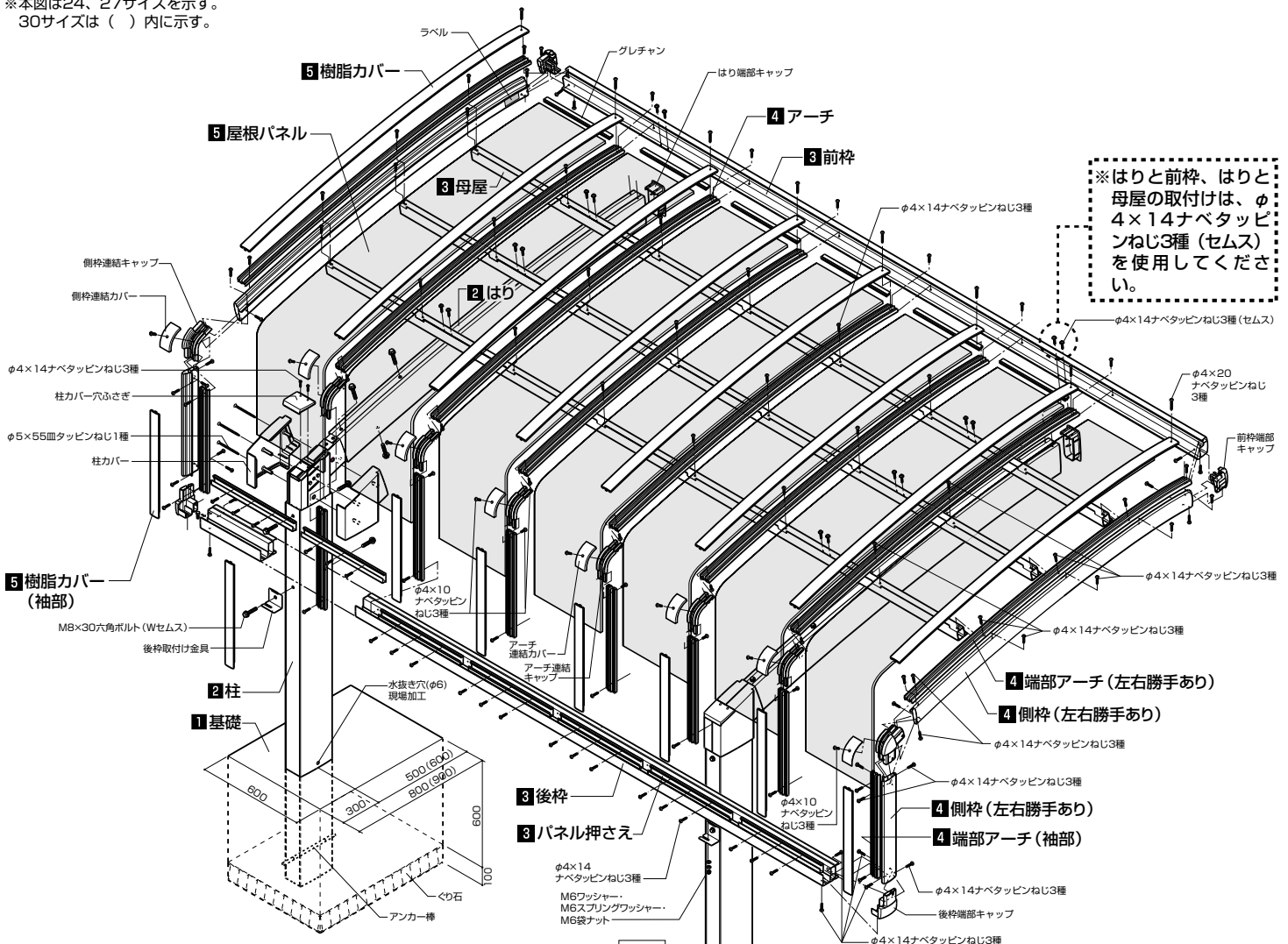
- 屋根の上には絶対にのらないでください。転落するおそれがあります。
- 積雪が20cmを超える前に雪おろしをしてください。製品破損による被害のおそれがあります。雪の重さは雪の状態により大きく変化します。特に春先の雪は重く降雨や湿雪の後などは新雪に比べ3倍位の重さになります。
※積雪量1cmあたり3kg/m²（比重0.3）で算出しています。（雪おろしの際、絶対に水をかけないでください。雪がさらに重くなります。）

お願い

- 当社指定の付属品以外は取り付けしないでください。
- 屋根の上に物をのせないでください。
- ボルト・ナット・ねじ等は絶対に緩めないでください。
- 積雪時・強風時には製品の補強のため、補助柱を使用してください。
- 雪おろしの際、金属製のスコップ等を使用すると屋根材が割れたり傷つく原因になります。プラスチック製のスコップ等で静かに行なってください。

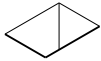
■構造説明図

※本図は24、27サイズを示す。
30サイズは（ ）内に示す。

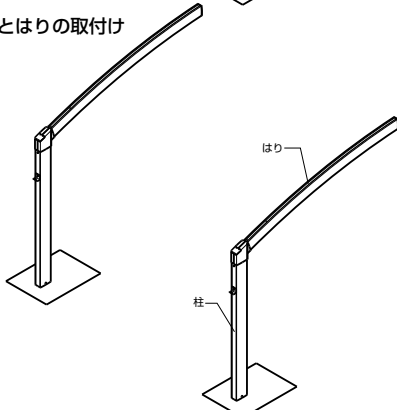


■組立て手順

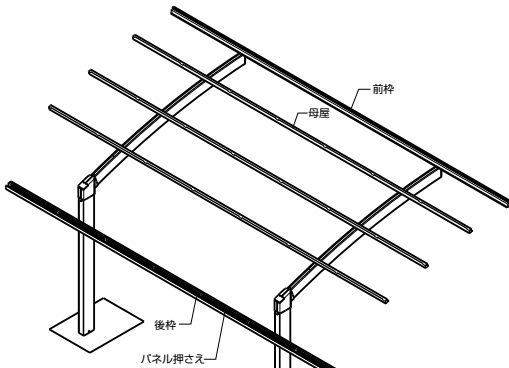
1 基礎の施工



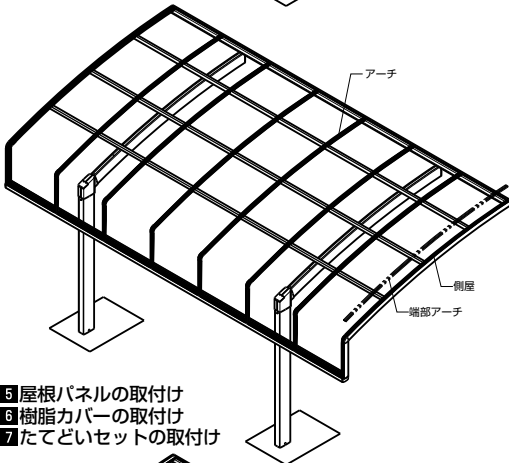
2 柱とはりの取付け



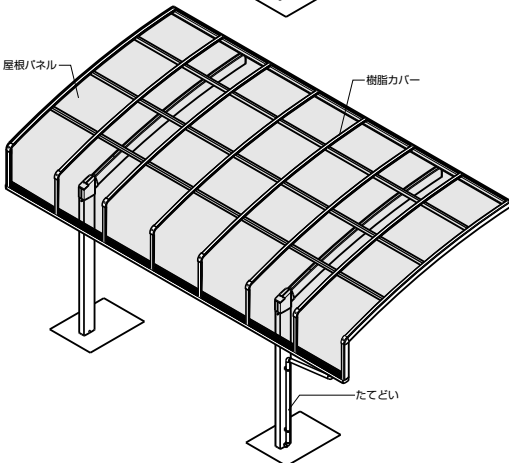
3 前枠・母屋・後枠・パネル押さえの取付け



4 側枠・端部アーチ・アーチの取付け



5 屋根パネルの取付け
6 樹脂カバーの取付け
7 たてどいセットの取付け



■取付け手順

1 基礎の施工

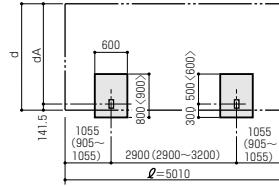
●柱埋込み穴の位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。

サイズ呼称	d	dA
24	2427	2285.5
27	2733	2591.5
30	3024	2882.5

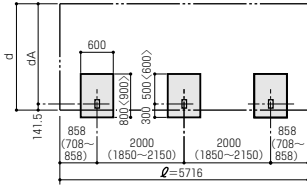
■墨出し位置

※()内寸法は柱移動範囲を示す。
※< >内寸法は30サイズの基礎穴寸法です。

50サイズ



57サイズ



2 柱とはりの取付け(図1参照)

①柱にプレート・後枠取付け金具・アンカー棒をそれぞれ取り付け、柱を建て込みます。
②プレートに柱カバー穴をふさぎを取り付けます。

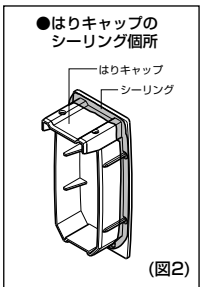
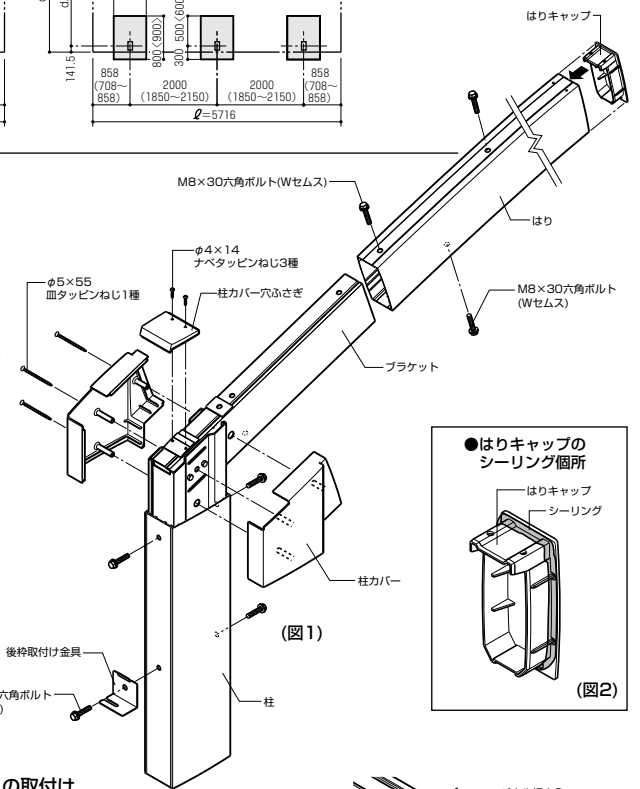
※柱カバー穴ふさぎは必ず柱カバーを取り付ける前に固定してください。

③はりをプレートに取り付けます。その後、柱カバー・はりキャップをそれぞれ取り付けます。(図1参照)

※はりキャップを取り付ける際は、シーリング材を充てんしてください。(図2参照)

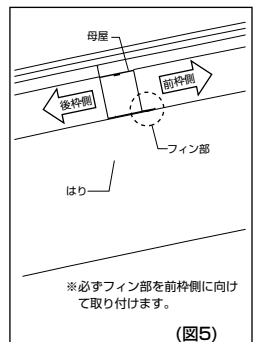
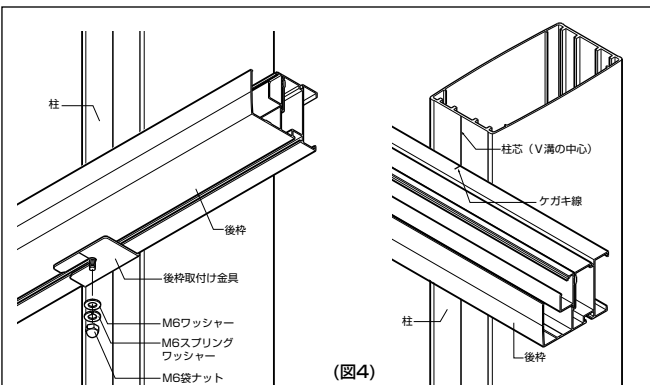
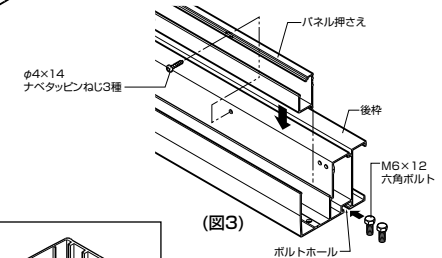
※はりキャップは、前枠を取り付けた後では取り付けられません。必ず、前枠より先に取り付けてください。

※「使用上の注意」ラベルが張ってある柱にたてどいセットを取り付けると、表示が見えなくなります。たてどいセットの取付けが可能な面に表示ラベルを向けてください。



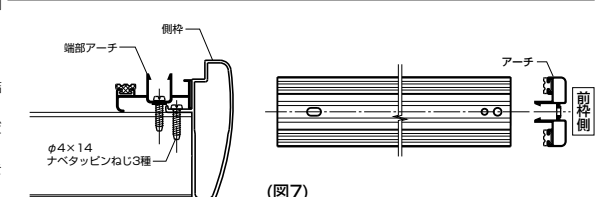
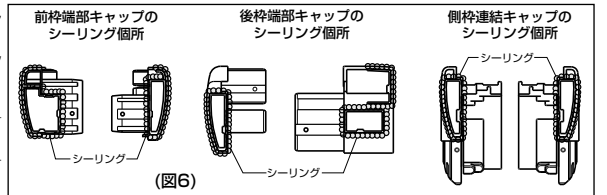
3 前枠・母屋・後枠・パネル押さえの取付け

①パネル押さえを後枠に取り付けます。
②後枠のボルトホールに、2本柱は2個、3本柱は3個、六角ボルトを差し込みます。(図3参照)
③後枠取付け金具に後枠をのせます。(図4参照)
④後枠のケガキ線を柱芯に合わせて六角ボルトを止めます。
⑤フィン部を前枠側に向け、母屋をはりに取り付けます。(図5参照)
⑥前枠をはりに取り付けます。
※柱移動した場合は前枠・母屋の使用しない穴に穴ふさぎシールを張ってください。



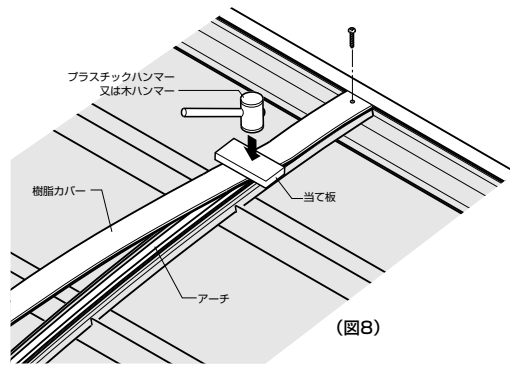
4 側枠・端部アーチ・アーチの取付け

①前枠端部キャップ・後枠端部キャップ・側枠連結キャップに、シーリング材を充てんします。(図6参照)
②側枠のラベルがある方(前枠側)に、前枠端部キャップを取り付けます。
③側枠と側枠(袖部)を、側枠連結キャップで接続します。
④側枠(袖部)の後枠側に、後枠端部キャップを取り付けます。
⑤側枠及び側枠(袖部)を前枠・母屋・後枠に取り付けます。
⑥端部アーチ及び端部アーチ(袖部)を、側枠及び側枠(袖部)の上に取り付けます。
※端部アーチには左右があります。(図7参照)
⑦右図の向きで、アーチを前枠と母屋に取り付けます。
⑧アーチとアーチ(袖部)をアーチ連結キャップで接続し、後枠に取り付けます。
※アーチには前後の区別がありますので、ご注意ください。(図7参照)
⑨屋根枠まわりの対角・水平出し及び柱の垂直出しを行ってください。

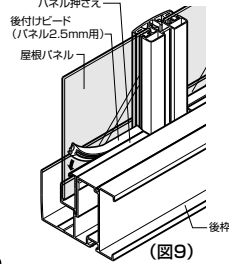


6 屋根パネル・樹脂カバーの取付け

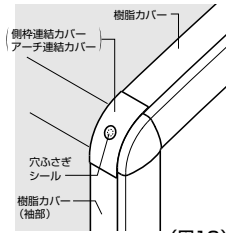
- ①屋根パネルの前枠側にグレチャンを取り付け、水平に前枠に差し込みます。
- ②後枠側を、後枠のパネル押さえの透き間に差し込みます。
※屋根パネルは、樹脂カバー・樹脂カバー（袖部）に対して左右均等に(12mm)のみ込まれるように設置してください。
- ③屋根パネルのコーナー部をアーチ連結キャップ・側枠連結キャップに合わせながら、樹脂カバー（袖部）を上からたたき込みます。
- ④樹脂カバー取付け位置を確認し、樹脂カバーが斜めにカットされている方を前枠の透き間に4mm程差し込んでたたき込みます。（図8参照）
※樹脂カバーをたたき込む際、必ず当て板をしてください。
- ※必ず型材と樹脂カバー・樹脂カバー（袖部）のはめ合わせ位置が合っていることを確認してください。
- ※必ず、プラスチックハンマー又は、木ハンマーを使用してください。
- ※樹脂カバーの中央が少しへこむまでたたき込み、確実に取付けたことを確認してください。
- ※一度取り外した樹脂カバーは、再度使用できませんのでご注意ください。
- ⑤後付けビードを =666mmに切断し、屋根パネルを固定します。（図9参照）
- ⑥側枠連結カバー・アーチ連結カバーをそれぞれ側枠連結キャップ・アーチ連結キャップにねじ止めし、穴ふさぎシールを張り付けます。（図10参照）



(図8)

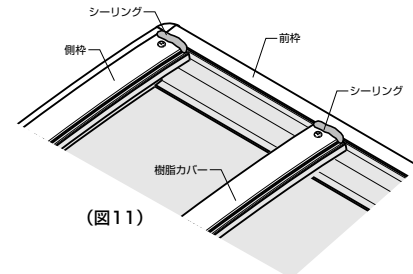


(図9)

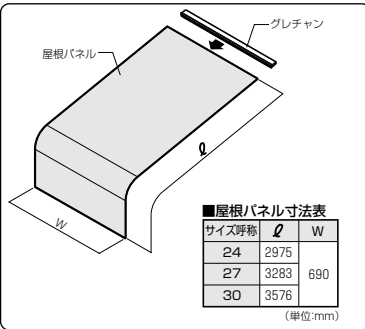


(図10)

●シーリング箇所

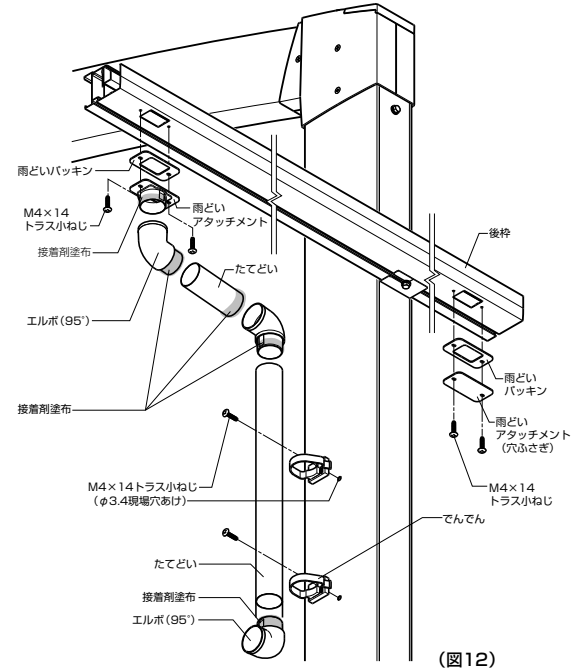


(図11)



7 たてどいセットの取付け (図12参照)

- ①後枠の両端に水抜き加工がしてあります。片方にたてどいセットを取り付けます。
- ②もう一方の穴は、雨どいアタッチメント(穴ふさぎ)を取り付けます。



(図12)

■M合掌の施工手順

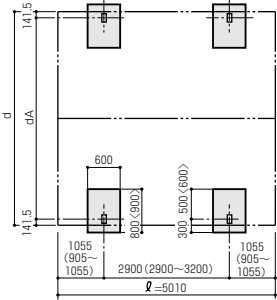
1 基礎の施工

- 柱埋込み穴位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。
- ※基礎構造については、基本タイプを参照してください。

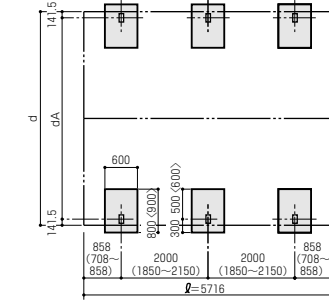
■墨出し位置

- ※ () 内寸法は柱移動範囲を示す。
- ※ < > 内寸法は30サイズの基礎穴寸法を示す。

50サイズ

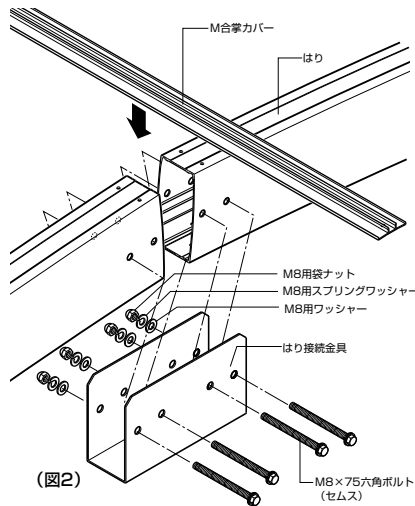


57サイズ

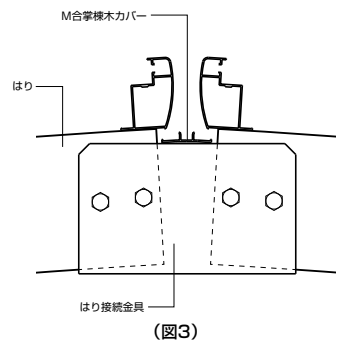


サイズ呼称	d	dA
24-24	4875	4592
27-27	5485	5202
30-30	6068	5785

単位:mm



(図2)

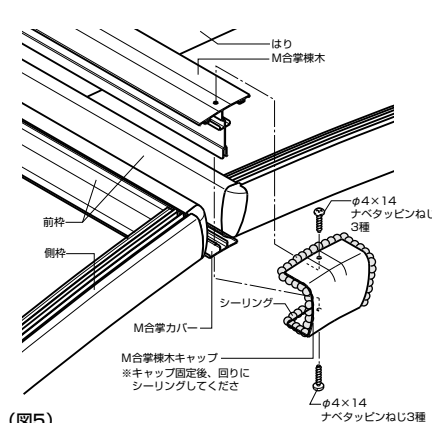
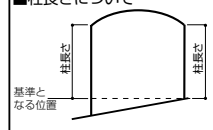


(図3)

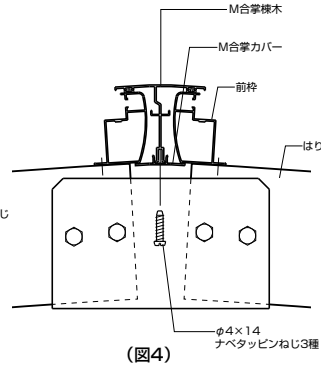
2 本体の組立て

- ①はりの前枠側を現場加工します。（図1参照）
- ②柱・はりを組み立てて柱基礎穴に入れ、はりとはりをはり接続金具で接続します。（図2参照）
- ③M合掌カバーをはり接続金具の上のせた後、前枠・母屋・後枠・側枠を取り付けます。（図3参照）
- ④M合掌棟木・M合掌棟木キャップを取り付けます。（図4・5参照）
※M合掌部以外の組立ては、基本タイプを参照してください。
※基礎となる位置からの柱長さを同じにしてください。長さが違う場合、合掌棟木に水が溜まり漏水するおそれがあります。

■柱長さについて

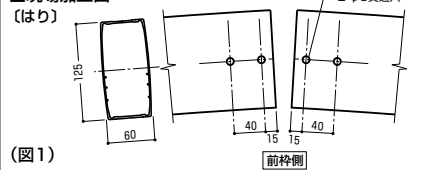


(図5)



(図4)

■現場加工図



(図1)

■縦連棟の施工手順

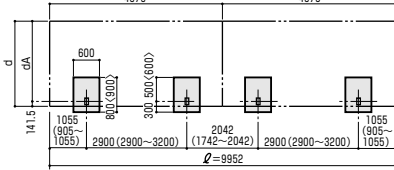
■基礎の施工

- 柱埋込み穴の位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。
- ※基礎構造については、基本タイプを参照してください。

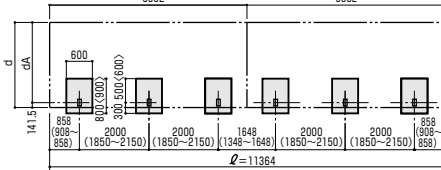
■墨出し位置

- ※ () 内寸法は柱移動範囲を示す。
- ※ 〈 〉 内寸法は30サイズの基礎穴寸法を示す。

50サイズ+50サイズ



57サイズ+57サイズ



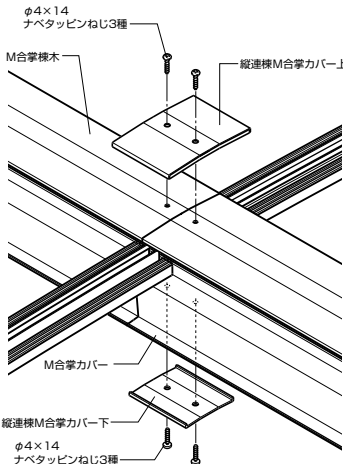
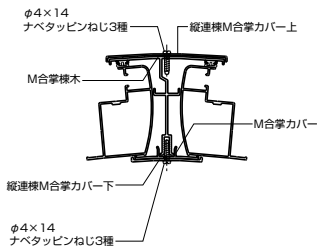
サイズ	d	dA
24	2427	2285.5
27	2733	2591.5
30	3024	2882.5

■2 本体の組立て

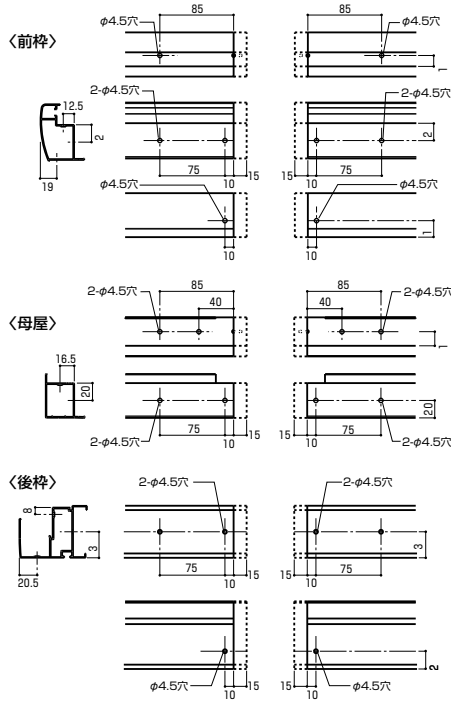
- ①前枠・母屋・後枠の縦連棟側を現場加工します。(図6参照)
 - ②縦連棟部にシーリング材を充てんし、連棟用スリーブ・前枠・母屋・後枠を接続します。(図7・8参照)
- ※縦連棟部以外の組立ては、基本タイプを参照してください。

■3 M合掌の縦連棟

- ①M合掌棟木・M合掌棟木カバーの縦連棟側を現場加工します。(図9参照)
- ②M合掌棟木及びM合掌カバーの縦連棟部に縦連棟M合掌カバー上下を取り付けます。

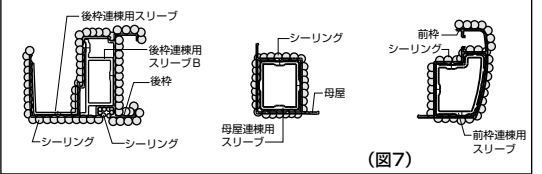


■現場加工図 ※破線部は現場切断

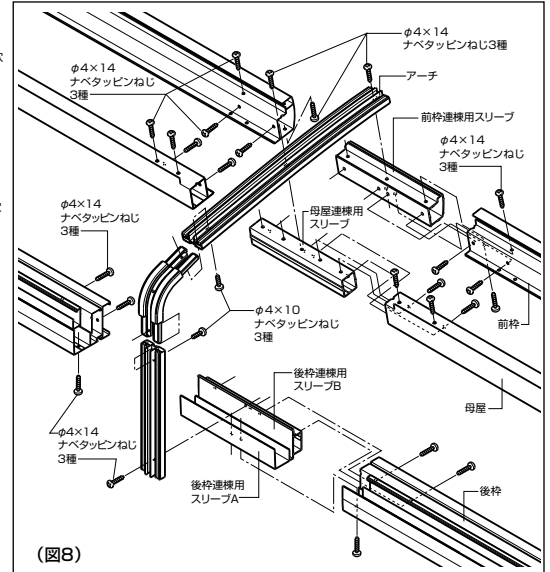


(図6)

●後枠シーリング箇所 ●母屋シーリング箇所 ●前枠シーリング箇所



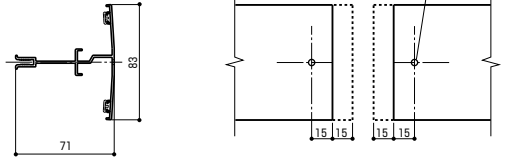
(図7)



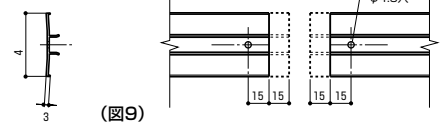
(図8)

■現場加工図 ※破線部は現場切断

●M合掌棟木



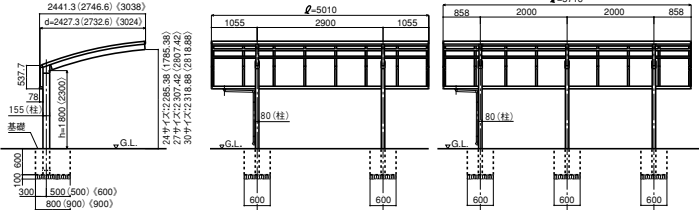
●M合掌棟木カバー



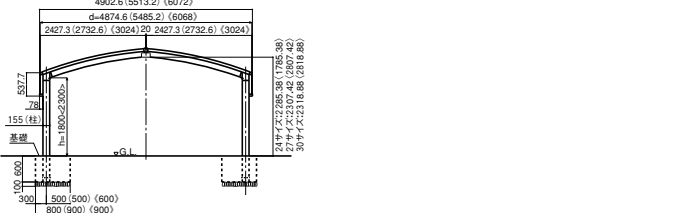
(図9)

■納まり参考図

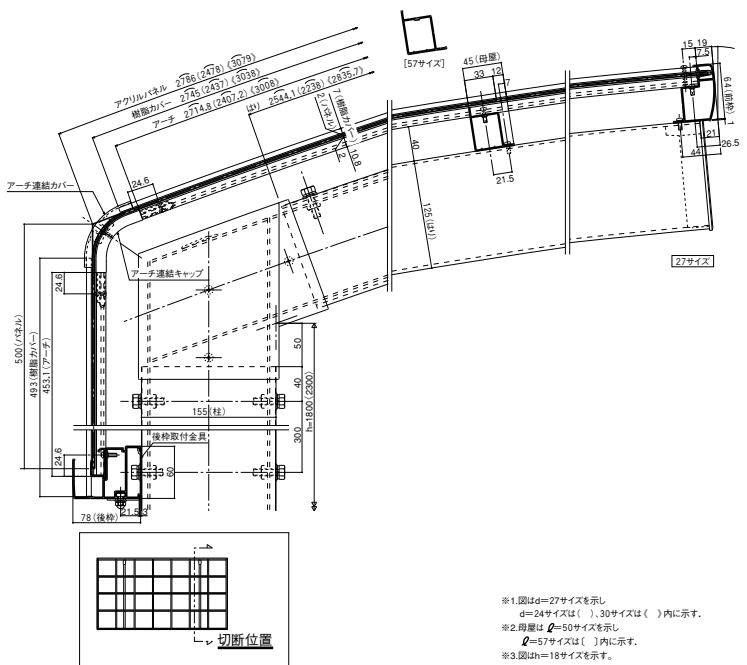
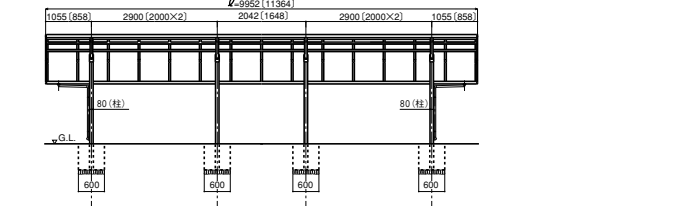
●基本タイプ



●M合掌



●縦連棟



※1. 図はd=27サイズを示し、d=24サイズは()、30サイズは〈 〉内に示す。
 ※2. 母屋はQ=50サイズを示し、Q=57サイズは()内に示す。
 ※3. 断面は=18サイズを示す。
 ハイルーフ柱仕様が()に示す。